【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【公開番号】特開2005-61957(P2005-61957A)
【公開日】平成17年3月10日(2005.3.10)
【年通号数】公開・登録公報2005-010
【出願番号】特願2003-291450(P2003-291450)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　35/00　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　35/10　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　35/00　Ｅ
Ｇ０１Ｎ　35/06　Ｃ
Ｇ０１Ｎ　35/06　Ｇ
Ｇ０１Ｎ　35/06　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成18年6月29日(2006.6.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ピペット先端に装着されたピペットチップ内に試験管内から液状内容物を吸引し、マイクロプレート上の所望の穴に前記液状内容物を排出する液状内容物分注装置において、ピペットを有するヘッド部と、ピペットの先端に装着するピペットチップを保持するチップケースと、液状内容物または液状内容物を含んだ液体物を貯留する試験管を保持する試験管ラックと、マイクロプレートと、これらを上面に配置するテーブル部と、を備え、前記ヘッド部と前記テーブル部とが相対的に移動して分注作業を行うことを特徴とする卓上型液状内容物分注装置。
【請求項２】
脱離したピペットチップを収容するチップ廃棄箱をテーブル上に備えることを特徴とする請求項１記載の卓上型液状内容物分注装置。
【請求項３】
前記ヘッド部は、試験管内の液面位置を検出する液面検出手段を有することを特徴とする請求項１または請求項２に記載の卓上型液状内容物分注装置。
【請求項４】
チップ廃棄箱が、チップ脱離手段を備えることを特徴とする請求項２または請求項３に記載の卓上型液状内容物分注装置。
【請求項５】
前記テーブル上において、チップケースとマイクロプレートとが互いに点対称の位置に配設することを特徴とする請求項１ないし請求項４のいずれかに記載の卓上型液状内容物分注装置。
【請求項６】
前記テーブル上において、試験管ラックとチップ廃棄箱とが互いに点対称の位置に配設することを特徴とする請求項２ないし請求項５のいずれかに記載の卓上型液状内容物分注装置。

【請求項７】
ピペットの作業待機位置に近い位置にチップケースを配置することを特徴とする請求項１ないし請求項６のいずれかに記載の卓上型液状内容物分注装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
生化学分野においては、微生物などの生化学物質の培養や試験などの各種の処理が行われる。一般にこれらの処理は、対象の生化学物質を含んだ液状試料を専用の容器に収納した状態で行われる。これらの処理は通常多数の試料を対象として系統的に行われる場合が多いため、容器には多数の液状試料が同時に収納できるように、液状試料の収納部であるウェルが格子状に多数設けられたマイクロプレートが用いられる。そして培養や試験の過程においては、マイクロプレート間で液状試料の移注や小分けを行う分注操作が繰り返し行われる。
例えば、一般に血液検査は被験者から採取した血液を血清と血餅とに遠心分離した後、血清と血餅とに遠心分離された検査試料を収容した容器内から血清のみを抽出し、これを試験管等の別の容器に分注して行われる。
したがって、この様な血液の臨床検査に使用され血清分注装置は検査試料が収容された容器内から血清を抽出する手段として吸引ノズルを備えており、この吸引ノズルを検査試料が収容された容器内に下降させて血清を吸引するように構成されている。（例えば、特許文献１参照）。
または、アームを旋回させるものが知られており、スペースを要するものである（例えば、特許文献２参照）。
【特許文献１】特開平９－１３８２３６号公報
【特許文献２】特開２００２－３０１２８９号公報
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
血清分注装置本体１０と分注装置本体を形成するＹ軸移動手段１４上に配設されたテーブルであるステージ２１とで構成されている。